

(資料 5 - 2)

ズワイガニ北海道西部系群 研究機関会議結果



国立研究開発法人 水産研究・教育機構

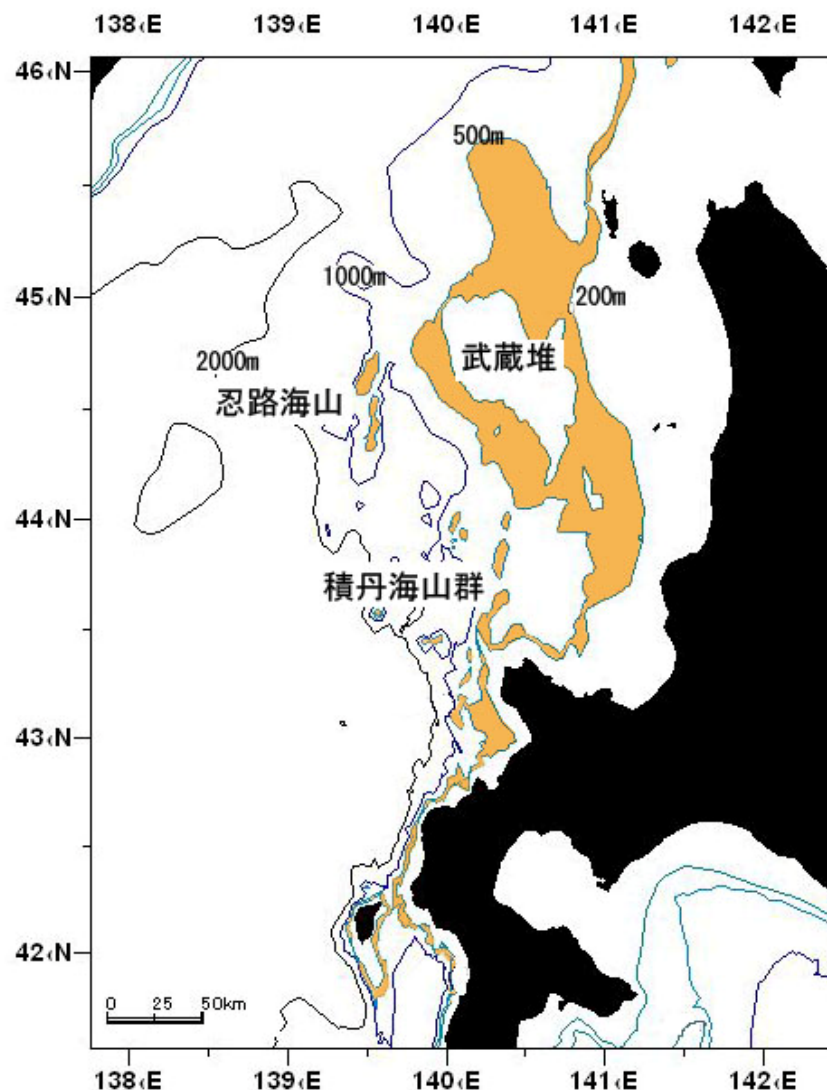
内容



1. **ズワイガニ北海道西部系群の資源評価結果**
2. **資源管理目標等を導入した「新たな資源評価」に基づく、ズワイガニ北海道西部系群の漁獲管理規則等の提案について**

1. ズワイガニ北海道西部系群の資源評価結果概要

ズワイガニ北海道西部系群の分布・回遊状況



分布海域

- 北海道日本海側の大陸棚斜面域および沖合海山群の斜面域に分布
- 成体ガニの分布水深は400m前後

成熟・産卵

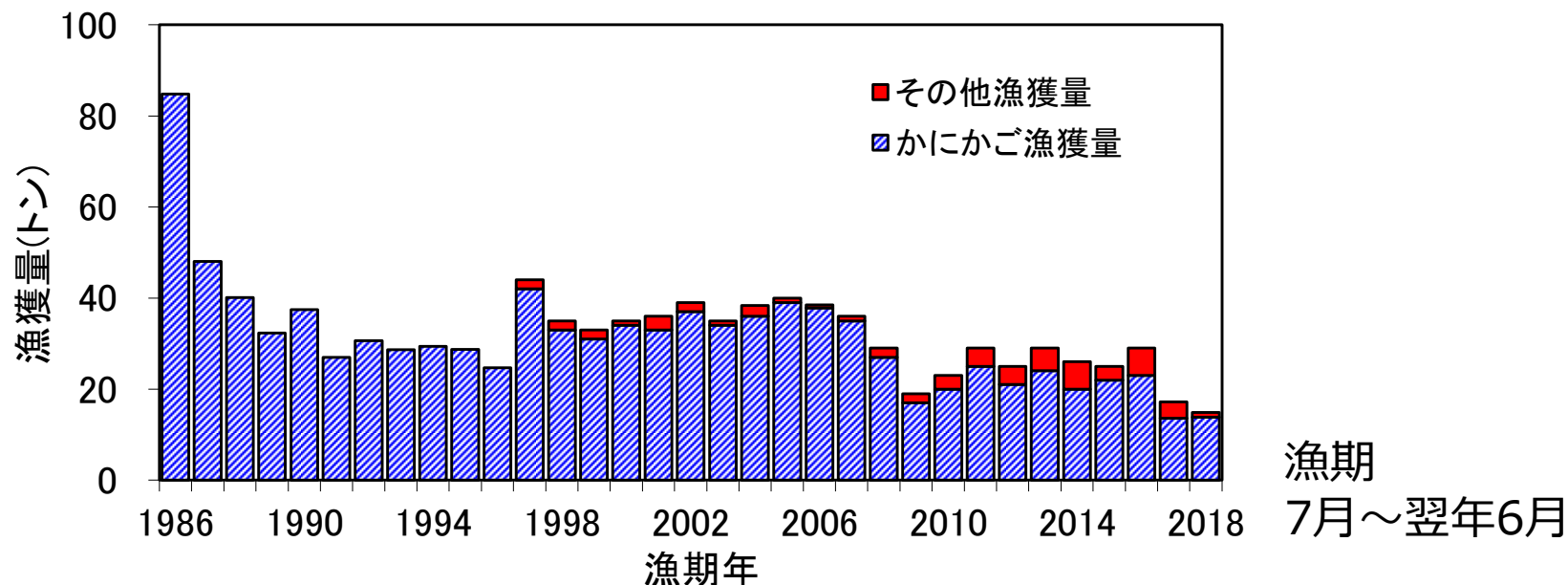
- 抱卵した雌ガニや小型個体が見られることから、ズワイガニが本海域で再生産している可能性は高いが、詳細は不明

移動・回遊等

- 詳細は不明
- 漁場は忍路海山、積丹海山群、および武蔵堆斜面域に形成される

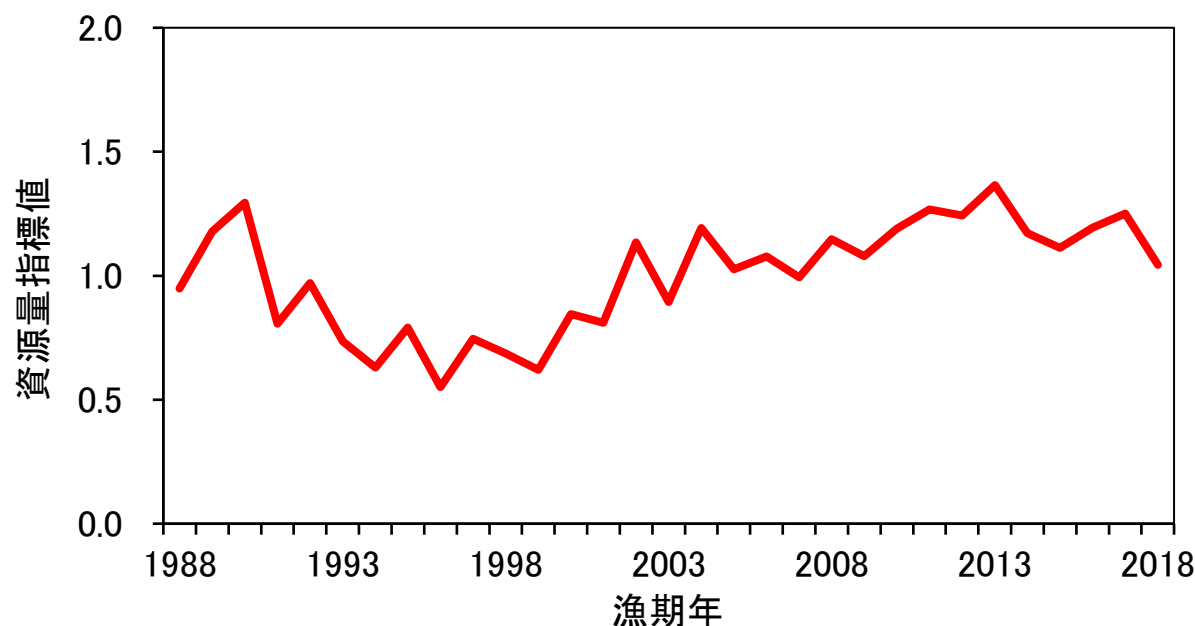
1. スワイガニ北海道西部系群の資源評価結果概要

漁獲量の推移



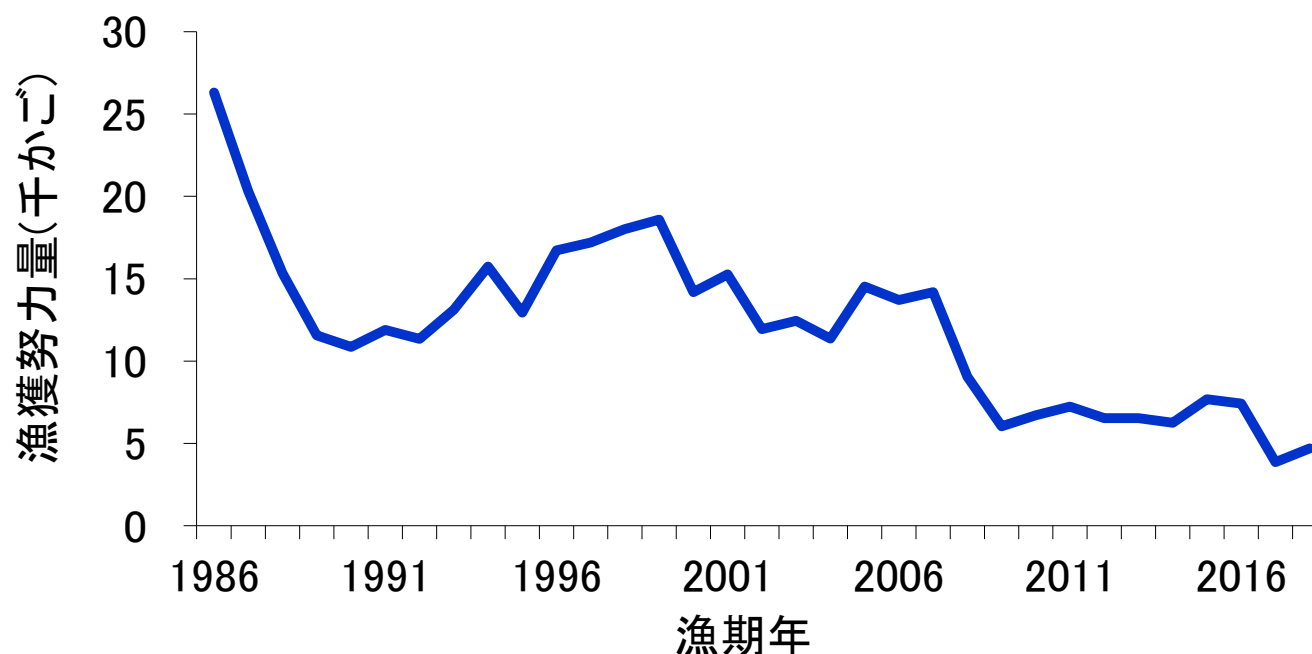
- 知事許可漁業「ずわいがにかご漁業」が主体であり、ベニズワイガニ漁場への途中で操業する補完的漁業。
- 1986年は85トンであったが、2009年には19トンに減少し、以後やや増加したが、2017年17トン、2018年に過去最低の15トンにまで減少。
- 2009～2018年の漁獲量は低水準であるが、これは漁獲努力量が減少したことによる。

資源量指標値の推移



- 従来の評価では、三か所の漁場毎のかにかご漁業CPUEを用いた資源評価を実施していたが、本報告では、各漁場のCPUEを一括して取り扱う形で算出した標準化CPUEを用いている。
- 標準化CPUEは1980年代末～1990年代後半にかけて低下した後は上昇して、近年は比較的高い水準を維持している。

漁獲努力量の推移



- 漁獲努力量（かご数）は1986～1990年に26千かごから11千かごに急減したが、1990年代後半には19千カゴ程度まで増加し、2000～2008年には9千～15千かごで推移した。
- 2009年以降は6千～8千かごと減少し、さらに2017～2018年には荒天の影響もあり、4千～5千かごへとさらに減少した。
- 2009～2018年の漁獲量の減少は、漁獲努力量の減少が主因である。

2. 資源管理目標等を導入した「新たな資源評価」に基づく、ズワイガニ北海道西部系群の漁獲管理規則等の提案について

- 当該水域の漁獲主体である北海道知事許可漁業である「ずわいがにかご漁業」は独立した漁業ではなく、同水域で操業されている「ベにずわいがにかご漁業」とセットで許可されており、これらの許可隻数は「3隻」と規定されている。
- 漁期や漁獲物の体長・性別制限の他、設置できる漁具総量についても6連以内および1000個以内とされ、これもベにずわいがにかご漁業とシェアされている。
- 北海道日本海側におけるベニズワイの漁獲量は、平成21年以降、1,675～3,615トンで推移しており、実質的に漁獲の主体はベニズワイであり、ズワイガニの漁獲は極めて小規模であり、付随的なものに過ぎない。
- 本資源のABCは、平成19年度以降、43トンで固定した値が提案され、実漁獲量がこの値を上回ったことはない。現状の漁獲努力量が増大する懸念は少なく、および近年の資源状況も大きな変化は認められていない。

「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される
管理基準値案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。

漁獲管理としては、漁獲努力量が大きく抑制され今後も増大の懸念が少ないこと、現状の資源状況も良好な状態にあり大きな変化は認められないことから、平成19年度から用いている43トン以下での漁獲を提案する。